

2019年度学校評価報告書

京都聖カタリナ高等学校 中・長期経営計画グランドデザイン(2期)

建学の精神

- 1 キリスト教の世界観
- 2 真理を観想し、観想の実を他に与える
- 3 聖カタリナの模範と教訓

イエス・キリストのように神を愛し、お互いに愛し合うことによって、人間としての真の幸せを享受し、平和な世界を作り上げる。
 設立母体、聖ドミニコ宣教修道女会の精神は「真理を観想し、その実を他に伝えよ」であり、愛と真理を世界に広めることを目指す。
 本校の保護者と仰ぐ、シエナの聖カタリナの精神と学識にない、神の愛と人への奉仕に生涯を捧げる人間を育成する。

教育目標

- | | |
|---|---|
| 1. 教育方針 | 2. 校訓 |
| (1) カトリック精神にもとづく人格教育に重きを置き、特性を磨き、品性を高め、良心に従って生活する真の人間を育成する。 | 誠実 社会成立の基礎として各個人が真実に従って生き、相互に信頼し合うことです。 |
| (2) 建学の精神にかかげる教育を身につけさせるとともに、個々の適性、能力、関心を理解し、進路に応じた知識、技能を授ける。 | 高潔 人間の尊厳を守るために、個人と社会を取り巻く諸困難に立ち向かってゆく強く気高い心身をもつことです。 |
| (3) 自発的精神を養い、文化の創造と発展に貢献する人間の育成につとめる。 | 奉仕 民族、地域、社会、文化の差異を越えて、世界の平和と発展のために、すべての人間に対して、尽力することです。 |

経営方針

- 1 特色ある教育機関として、更に教学の充実を図る。
- 2 特色ある教育機関として社会に貢献するため、将来にわたって安定した財務基盤を確立する。

中・長期経営計画 期間:2016年度～2020年度

基本方針

- 1 各科、各系の充実と見直し
特色ある学校として、社会に貢献していくため、各科の充実と教学の充実を図る。
- 2 進路の保障と充実。
看護の進路を保障及び普通科の新たな進路先の開拓
- 3 高大専連携の実施と充実
高校、大学、専門学校との連携を密にし、教育内容の充実と進路を保障する。
- 4 退学率低下への取り組み
退学を防ぐため、低学力生徒及び特別支援生徒への個別サポート体制づくりと経済的支援制度の活用によって転退学生徒を最小限に止める。
- 5 生徒募集活動の強化
少子化の進む中、府外への募集活動も積極的に行い、広範囲での募集活動を展開することで本校への理解をより高め、教育内容の充実と合わせ、募集活動を内外両面より強化する。
- 6 施設設備の整備
生徒の安全確保と教育環境改善のための施設設備整備計画を実施する。
- 7 教職員研修と組織改革
教職員の技能、資質向上のための研修会の実施と組織力を高めるための組織改革を行う。

主要施策

- 1 各科、各系の充実と見直し
(1) 看護科の充実
(2) 普通科5系の充実と見直し
- 2 進路の保障と充実
(1) 看護科の進路保障
(2) 普通科5系のそれぞれの進路を保障する
- 3 高大専連携の実施と充実
(1) 大学及び専門学校との連携の強化
- 4 退学率低下への取り組み
(1) 低学力生徒及び特別支援生徒へのサポート体制の強化
(2) 低所得家庭生徒への教育保障
- 5 生徒募集活動の強化
(1) 募集活動地域の拡大
(2) 魅力ある教育を行い募集に連動させる
- 6 施設設備の整備
(1) 施設整備計画の作成と実施
- 7 教職員研修と組織の改革
(1) 教職員研修の実施と意識改革
(2) 学校改革と組織づくり

目的等

- 看護科教育を更に充実させ、看護師国家試験合格率100%を維持する。
 新教育課程に向け、専門教科、学校設定科目の検討と見直しを行う。
- 進路保障の一環として聖カタリナ大学説明会を実施する。
 生徒のニーズにあった進路先の新たな開拓と就職先確保への取り組みを実施する。
- 進路保障の一環として聖カタリナ大学説明会を実施及び「5系」連携校による出前授業の提供と受講。
- 低学力生徒へのサポート体制の充実と特別支援生徒への個別プランによる組織的支援により、退学率5%以内とする。
 国、京都府の支援制度や奨学金等の活用により就学を保障する。
- 看護科募集エリアへの今まで以上の情報提供と募集強化・普通科の魅力の発信力強化
 普通科「5系」の学校設定教科の見直しとボランティア実践によるボランティア精神の育成
- 教育環境の向上と安全を確保する。
- 就職3年以内の教育制度の確立と研修
 組織的な学校運営と教職員の指揮命令系統の確立

推進組織

- 看護科
 普通科
- 進路部・看護科
 進路部・普通科
- 進路部
- 教務部・学年団
 事務室
- 運営委員会
普通科・宗教情報委員会
- 事務室
- 管理職
 管理職

2019年度 計画実施管理表

1. 各科、各系の充実と見直し

(1) 看護科の充実

方針・目的

本校看護科の伝統的な特色である「生徒一人ひとりに対するきめ細やかな指導」を心がけ、国家試験100%合格を目指す。

具体的対策

- ・高校入学当初より、国語・数学・理科の基礎学力を強化するとともに、看護基礎医学の徹底指導を行う。
- ・高校3年生を「専攻科準備学年」としてとらえ、国家試験対策を始める。

実施計画	担当部署・責任者	実施内容	評価と対応
<p>1. 国語・数学・理科の基礎学力の強化</p> <p>2. 看護基礎医学授業内容の充実</p> <p>3. 全学年共通の解剖生理復習テスト実施</p> <p>4. 上級生による下級生への学習指導</p> <p>5. 国家試験対策</p> <p>①外部講師による出張講義</p> <p>②業者模擬試験</p> <p>6. 成績分析及び国家試験結果の関連の検討</p>	<p>看護科科长・看護科</p>	<p>1. 習熟度別学習(英語・数学)を行っている。また、「すらネット」を活用し、個々の理解・習熟度に合わせた授業を行っている。</p> <p>2. 精選表を用いて、科目ごとの内容を精査して授業を行っている。また、放課後の補習により、看護基礎医学の知識の定着が図られている。</p> <p>3. 各学年で学習状況にばらつきがあり、全学年共通のテストは実施できていない。</p> <p>4. 生徒個々間での交流はみられるが、授業や学習指導という点での実施はできていない。</p> <p>5. 外部講師の出張講義を行っている。 第1回 業者全国模試 (5/7) 第2回業者全国模試 (11/12) 国試ガイダンス(5/16) 第1回 業者全国模試(5/23) 国家試験対策講義(7/31・8/28・10/16)</p> <p>6. 模試結果や日々の学習の取り組みなどから成績を分析し、その都度、補習メンバーを入れ替えて実施している。また、アドバイザーとしての国家試験対策の専門講師とも、常に報告・連絡・相談を行っている。</p>	<p>国語と理科に関しては、担当教員に任せている部分が多いが、理科では看護の知識を復習するためのプリント課題を実施している。長期休暇明けに実施している実力判定試験においても、合格者には間違った問題のやり直しのレポート、不合格者には全問題のやり直しのレポートを提出させた後、再試験を実施している。</p> <p>看護科としての縦の交流が希薄なため、授業では、学習指導にとどまらず、上級生が下級生をサポートし、下級生が上級生を敬うといった関係性を築いていく必要がある。</p> <p>国家試験対策においては、3年生から模試やガイダンスを行っており、早い段階から国家試験を意識させている。2020年2月16日に行われる国家試験に向けて取り組みを強化し、3月19日の合格発表以降、今年度のデータを整理、分析し、相関関係を検討していく。</p> <p style="text-align: right;">評価B</p>

2019年度 計画実施管理表

1. 各科、各系の充実と見直し

(2) 普通科5系の充実と見直し
方針・目的

3Dマイドリームを達成し、夢の実現につなげる。

具体的対策

・学習(成果)発表会の実施・提携先(企業・大学・専門学校)の拡大と充実・アンケート実施(生徒の満足度)・地域との交流と協力。

実施計画	担当部署・責任者	実施内容	評価と対応
1.系の見直し 2.出前授業・聴講の実施 3.アンケート実施 4.各系の学習(成果)発表会と2つ以上のコラボでの学習(成果)発表会 5.5系の連携授業(同時開講) 6.ボランティア(地域との交流・協力)	普通科科長・普通科	・2020年度入学生より系の見直しを行い、仕事プロデュース系を廃止し仕事プログラミング系とすることに決まった。 ・出前授業の内容を考えて中学校に案内を配布した。 ・1年生マイドリーム講座で、2年時に希望する系のアンケートを実施した(7/4)。	・全体の見直しとはいかなかったが、1つの系を世の中の流れの中で、変更することができた。 ・中学校に出前授業の案内を行ったが、依頼はなかった。 ・1年生マイドリーム講座でのアンケートの実施、面談により、生徒は希望どおりの系が選択できた。 評価B

2019年度 計画実施管理表

2. 進路の保障と充実

(1)看護科の進路保障
方針・目的

看護科生徒の進路保障

具体的対策

・看護科の場合、卒業後、実習病院に就職するケースが60%を超えており、就職説明会におけるプレゼンテーションにより意思決定する生徒も多くみられることから、就職説明会を重要視する。

実施計画	担当部署・責任者	実施内容	評価と対応
1. 就職説明会を実施する	進路指導部部長 看護科科長・看護科	7月30日に看護科就職説明会を実施。16施設が来校。	実施計画に基づき実施できた。 評価A

2019年度 計画実施管理表

2. 進路の保障と充実

(2) 普通科のそれぞれの進路を保障
方針・目的

普通科関連大学・短大・専門学校との連携を通して、生徒の進路保障へつなげる。

具体的対策

- ・聖カタリナ大学・短期大学の学校説明会を実施する。
- ・普通科5系関連の大学・短大・専門学校の出前授業を企画、実施する。
- ・生徒の希望する業界、企業訪問や就職説明会に参加し、情報を収集する。
- ・ハローワークとの情報共有を行う。

実施計画	担当部署・責任者	実施内容	評価と対応
<ol style="list-style-type: none"> 1. 聖カタリナ大学の学校説明会を実施する。 2. 連携先大学の開拓を行う。 3. 普通科5系関連の大学・短大・専門学校の出前授業を企画、実施する。 4. キャリア教育を実施する。 5. 進路実現に向けて学力向上を図る。 6. 生徒の希望する業界、企業訪問や就職説明会に参加し、情報を収集する。 7. 企業開拓を行う。 8. ハローワーク、障害者就労支援センター等外部機関との連携を密にし、生徒にあった進路保障を行う。 9. ポートフォリオファイルを作成し、3年間一貫した進路指導を行う。 10. 国語科と連携して、小論文指導を行う。 11. 外部模試を実施する。 	<p>普通科科長 進路指導部長</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 10月24日(木)聖カタリナ大学松波勝先生による出前授業と、大学説明会を実施した。 2. 未実施 3. 各系にて実施。 4. 6月7日(金)進学相談会、就職対策講座を実施。 10月28日(月)職業体験講座を実施。 10月11日(金)進学にかかるマネープラン講座を実施。 11月8日(金)キャンパスツアーを実施。花園大学、京都精華大学に分かれて見学。 5. 6. 7. 8. 7月10日(金)みやこめっせにて開かれた高校就職担当者と企業との懇談会に参加。京都府障害者職業訓練校の説明を聞き、名刺交換、情報交換を行った。 9. 担任が行う面接を記録した。基礎力診断テストの結果を保存した。 10. 4月9日(火)小論文ガイダンスを実施。4月22日(月)は3年生を対象、11月11日は1年生を対象とした小論文テストを実施した。 11. 4月26日(金)、9月3日(火)基礎力診断テスト、実力診断テストを実施。 	<p>2. 連携先大学の開拓が未実施。その他は達成。 評価B</p>

2019年度 計画実施管理表

3. 退学率低下への取り組み

(1) 低学力生徒及び特別支援生徒へのサポート体制の強化

方針・目的

低学力生徒及び特別支援生徒へ個別的支援を行うことにより、学力の向上、退学率の低下、進路保障をめざす。

具体的対策

・各学年団との連携を密に、個別支援プランを実践する。又、実践に対する評価、プランの修正を定期的に行う。
 ・ベネッセコーポレーションの学力指標(GTZ(学習到達ゾーン))の「D2-」が『仕事に取り組むための最低限の学力が身につけているまたは、短期大学・専門学校が合格がめざせる』最低のライン。「D3+」は『就職後仕事についていけない可能性が高いまたは、希望に沿った進学ができない可能性が高い』レベルとなる。要するにD3からD2へのステップアップが重要であるため、該当生徒の個別指導に取り組む。

実施計画	担当部署・責任者	実施内容	評価と対応
1. 個別支援プランに基づく実践, 評価, 考察, プランの修正 2. ベネッセGTZの「D3」から「D2」への具体的などりくみを行い進路の保障につなぐ (放課後、週3回の30分学習から始める)	学年会・教務部部长	1. 個別支援計画表を作成した。 2. すららネットを活用し、個々の学習の理解、進度に合わせた授業を行った。 ・1年3年のカタリナ講座で、各教科担当がマナトレの授業を実施した。 ・1年生の英語、数学の授業を習熟度別で実施。	・支援を必要とする生徒の個別の支援計画の作成が遅れた。 ・ケース会議を行い学年の引継ぎを行った。 ・「すらら」の活用により学習時間の把握ができるようになったが、成果(学力)という点では、可視化できていない。 ・1、2年の国語・、数学、英語で習熟度別授業を行い、学力に見合った授業が行えた。
3. 精神的支援	養護教諭	3.カウンセラーによるカウンセリングを週に1回、また、教育相談を2週間に1回行った。	・カウンセリングを利用する生徒が増え、学校生活での不安が解消されている生徒が増えている。 評価B

2019年度 計画実施管理表

3. 退学率低下への取り組み

(2) 低所得家庭生徒への教育保障
方針・目的

低所得世帯の生徒が経済的理由により就学の機会が失われることが無いように、国と京都府の修学支援制度を利用し、専攻科生徒については、病院の奨学金制度等を積極的に活用するなどの指導を行い、経済的理由での退学を無くす。

具体的対策

・毎年度当初に国の就学支援対象生徒と京都府のあんしん修学支援制度の対象生徒を把握し、対象生徒については学納金の納入を猶予し、経済面と精神面での保護者の負担を軽減し、生徒の修学を保障する。

実施計画	担当部署・責任者	実施内容	評価と対応
<p>1. 就学支援金、京都府あんしん修学支援制度の活用と専攻科学生については、病院の奨学金等を受させるなどして、当該理由での退学は無いようにする。</p>	<p>校長・事務長</p>	<p>就学支援金、京都府あんしん修学支援事務手続と申請事務を執り行う。 今年度は、就学支援金の申請がマイナンバー制度を利用するという大きな変更があったが、保護者への事前周知を含む準備がしっかり出来ており、特段の混乱はなかった。 現時点で、どうしても昨年度の確定申告を行わない1年生の家庭が1件あり、所得が少ないにも関わらず支援を受けられないことが見込まれ、個別の対応をすすめている。</p>	<p>ワークフレームは既に完成しており、支援事務は円滑に進んだが、副教材費を含めた、学納金等の滞納が続く家庭があり、非常に苦慮した。</p> <p style="text-align: right;">評価A</p>

2019年度 計画実施管理表

4. 生徒募集活動の強化と魅力ある教育の発信

(1) 募集活動地域の拡大

方針・目的

少子化の進む中、府内南部地域及び府外への募集活動も積極的に行い、広範囲での募集活動を展開することで本校への認知をより高める。

具体的対策

- ・看護科募集エリアの拡大
- ・普通科の魅力の発信

実施計画	担当部署・責任者	実施内容	評価と対応
<p>1. 本校の魅力を伝えるために募集エリアである府下一円(京都府北丹地域以外)及び大津市内中学校個別訪問の実施 2. 京都市内における塾対象入試説明会の開催 3. ホームページの適時な更新と情報提供 4. 中学校での出前授業の実施 5. 生徒募集の在り方の研究、検討、PDCAサイクル実施</p>	<p>運営委員会 入試広報部部长 入試広報部</p>	<p>1.入試広報部にて生徒募集企画・運営を行い、中学校への情報発信・中学校個別訪問は、運営委員が行った。 ・「私学フェア」参加(6/9みやこめっせ)相談生徒65名 ・第1回中高連絡会(6/10～6/28)中学校個別訪問 ・第1回オープンキャンパス(7/27)生徒156名参加 ・京都府私立高等学校入試合同説明会(125中学校対象)にて生徒募集要項の説明(8/20京都私学会館) ・部活オープンウイーク実施(8/19～8/24)12名参加 ・第2回中高連絡会実施(8/23～30)中学校個別訪問 ・京都府私立中学高等学校展参加(8/31・9/1みやこめっせ)相談生徒50名 ・第3回中高連絡会実施(10/3～18)中学校個別訪問 ・第1回入試説明会(10/5本校)33名参加 ・第2回入試説明会(10/19メルパルク京都)6名参加 ・西地区入試相談会(10/26ガレリア亀岡)相談生徒5名 2. 塾主催京都私立中学高校合同説明会に参加(9/13キャンパスプラザ)及び本校主催の塾対象説明会を実施(10/10本校)16塾17名出席。 3. ホームページの一部リニューアルと適時情報提供を行った。 4. 看護科の出前授業を3中学校で実施した。 5. 生徒募集のあり方を検討するため、入試広報部が他校(明德高校)のオープンキャンパスの見学を行った。</p>	<p>募集イベントの年間参加者数は、昨年度と比較して、看護科27名増、普通科4名の減であった。看護科については、入学者数(増)が期待されたが、2名(増)のみとなった。 受験者数については、募集イベント参加数(増)から、受験者数(増)を期待したが、昨年度に比べ4名減であった。また、昨年度から男子の併願受験を可能にしたが、男子の受験者数(増)とはならず、14名(減)であった。 募集イベントの参加数(増)が、入学者数(増)に繋がらなかった。イベント参加者を増やすことも大切であるが、イベントへの参加が、「本校へ進学したい」となるような、魅力的な募集イベントの開催が求められる。</p> <p style="text-align: right;">評価B</p>

2019年度 計画実施管理表

4. 生徒募集活動の強化と魅力ある教育の発信

(2) 教育方針・校訓の実践

① 教育方針の実践

方針・目的

カトリック精神にもとづき、将来社会で役立つ姿勢や態度を育成する。

具体的対策

カトリック精神にもとづき、基本的生活習慣の確立、正しい言葉遣い、身だしなみを身につけ、将来社会で役立つ姿勢や態度を育成する。

実施計画	担当部署・責任者	実施内容	評価と対応
<p>1. 各学期の始業式・終業式で、身だしなみなどの指導を実施</p> <p>2. 登校時の校門指導(あいさつ・身だしなみ・遅刻指導)の実施</p> <p>3. 定期的な服装・頭髪指導の実施</p> <p>4. 言葉遣いの乱れについては、その都度、指導を実施</p> <p>5. 前年度の検証と見直し</p>	<p>生徒指導部部長 生徒指導部</p>	<p>1. 各学期の始業式・終業式で、身だしなみなどの指導を実施した。</p> <p>2. 登校時の校門指導(あいさつ・身だしなみ・遅刻指導)校門まで毎朝実施した。</p> <p>3. 毎週水曜日に行われる祈りの集いに合わせ、定期的な服装・頭髪指導を実施した。</p>	<p>・指導の方針が変更になった部分が多くあったため、4月を移行期間とし、5月より本格的に段階指導などを実施した。</p> <p>・水曜日の祈りの集いで、教員2人1組で頭髪、服装、装身具などのチェックを実施した。頭髪でチェックを受けた生徒については生徒指導部長が一律に確認し、指導を実施した。</p> <p>・指導方針が大きく変わったため、教員間の意識の統一ができなかった。 評価C</p>

2019年度 計画実施管理表

4. 生徒募集活動の強化と魅力ある教育の発信

(2) 教育方針・校訓の実践

② 校訓の実践

方針・目的

校訓の実践および各学科の特性を活かしたボランティア活動の実施

具体的対策

- ・校内ボランティア活動をおし、ボランティア精神を育む。
- ・校内ボランティアから地域ボランティアへと範囲を拡大し、奉仕の精神を深める。

実施計画	担当部署・責任者	実施内容	評価と対応
1. 聖母月のボランティア 2. 5月・12月の募金活動 3. エコキャップ・プルタブ集め(学内) 4. 学内清掃ボランティア 5. 校長賞(ボランティア)受賞式 6. 聖家族幼稚園ボランティア 7. 特別支援学校との交流	宗教情操委員会委員長 宗教情操委員会	1. 聖母月奉仕活動実施 (5月17日) 2. 5月17日は「北海道胆振東部地震義援金」として86,855円を南丹市社会福祉協議会に届けた。 3. エコキャップの収集方法について、検討した。 6. 9月13日、27日、10月11日、25日、11月1日にインターアクト部は、聖家族幼稚園を訪問し「延長保育ボランティア」に参加した。 7. 特別支援学校との交流が11月16日に行われ、生徒会、バレー部、サッカー部の生徒が参加した。 ・11月1日(金)、台風19号による被災地への募金活動を行い、カリタスジャパンをとおして、19,955円を送金した。	聖母月の奉仕活動や募金活動は奉仕の精神を養うよい機会となっている。募金の送金先については、カトリック教会関係に偏らないよう地域とのバランスをとりながら決定した。特別支援学校との交流は、先方から毎年楽しみしていただいている恒例行事であり、充実した楽しい交流となっている。聖家族幼稚園ボランティアはインターアクト部が定期的に参加した。エコキャップ集めは年度末数回のみの実施となった。集めたキャップは教会へ持参した。校内清掃ボランティアの取り組みはできなかった。 評価B

2019年度 計画実施管理表

5. 施設設備の整備

(1) 施設整備計画の作成と実施
方針・目的

教育環境の整備と美化に努めるとともに生徒の安全を確保する。

具体的対策

- ・東館、本館の整備(内装外装、屋上防水工事)、グランド整備
- ・体育倉庫、部室の整備
- ・教室の防寒、暑さ対策、生徒昇降口改修工事(冬期の凍結、滑り止め)の実施

実施計画	担当部署・責任者	実施内容	評価と対応
1. 体育館美化整備	財務委員会	美化計画を立てていたが、美麗であり特段の対応は不要。安全と使い勝手の向上を目指し、出入口防球ネット設置、カーテンの新調を行った。	前年度に引き続き対応。生徒や保護者の反応は上々で、暗い、汚い、狭いという本校のキャンパスイメージを払拭しながら、安全・安心を確保する。 評価A
2. 危険箇所の点検整備	校長・副校長・教頭・事務長	校長室、職員室、事務長室、事務室のセコム自動警備、校内防犯カメラ増設、給排水設備修理を実施。	

2019年度 計画実施管理表

6. 教職員研修と組織の改革

(1) 教職員研修の実施と意識改革

方針・目的

教職員の技能・資質向上を図る。

具体的対策

- ・教職員研修の実施
- ・学校評価制度の充実
- ・リスク管理と危機管理体制の見直し

実施計画	担当部署・責任者	実施内容	評価と対応
1. 就職3年以内の教育制度のPDCAサイクル実施、 ①定期的な授業参観と授業評価システム 2. 社会人としてのマナー・モラル向上研修の実施と見直し 3. 学校自己評価の公開と検討 4. 学校関係者評価の検討 5. リスク管理と危機管理体制の見直し 6. カトリック研修の実施	校長・副校長・教頭・事務長	<ul style="list-style-type: none"> ・就職3年以内の教員の教育制度として、10,11月を授業参観期間とし、全教員が、対象教員の授業を参観し、感想・改善点等を報告。 ・学校自己評価を公開。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職3年以内の教員の教育制度として、10、11月を授業参観期間とし、全教員が、対象教員の授業を参観し、感想・改善点等を報告。 ・授業アンケート結果をふまえた学校自己評価を公開。 ・生徒・保護者に学校満足度アンケートを実施。結果を教員にフィードバックし、各自見直しを行った。 評価B

2019年度 計画実施管理表

6. 教職員研修と組織の改革

(2) 学校改革と組織づくり
方針・目的

教職員組織力を高めるための組織改革

具体的対策

- ・組織的な学校運営と教職員の指揮命令系統の確立
- ・人材育成制度の実施
- ・教職員指導体制の確立
- ・内部統制機能の強化

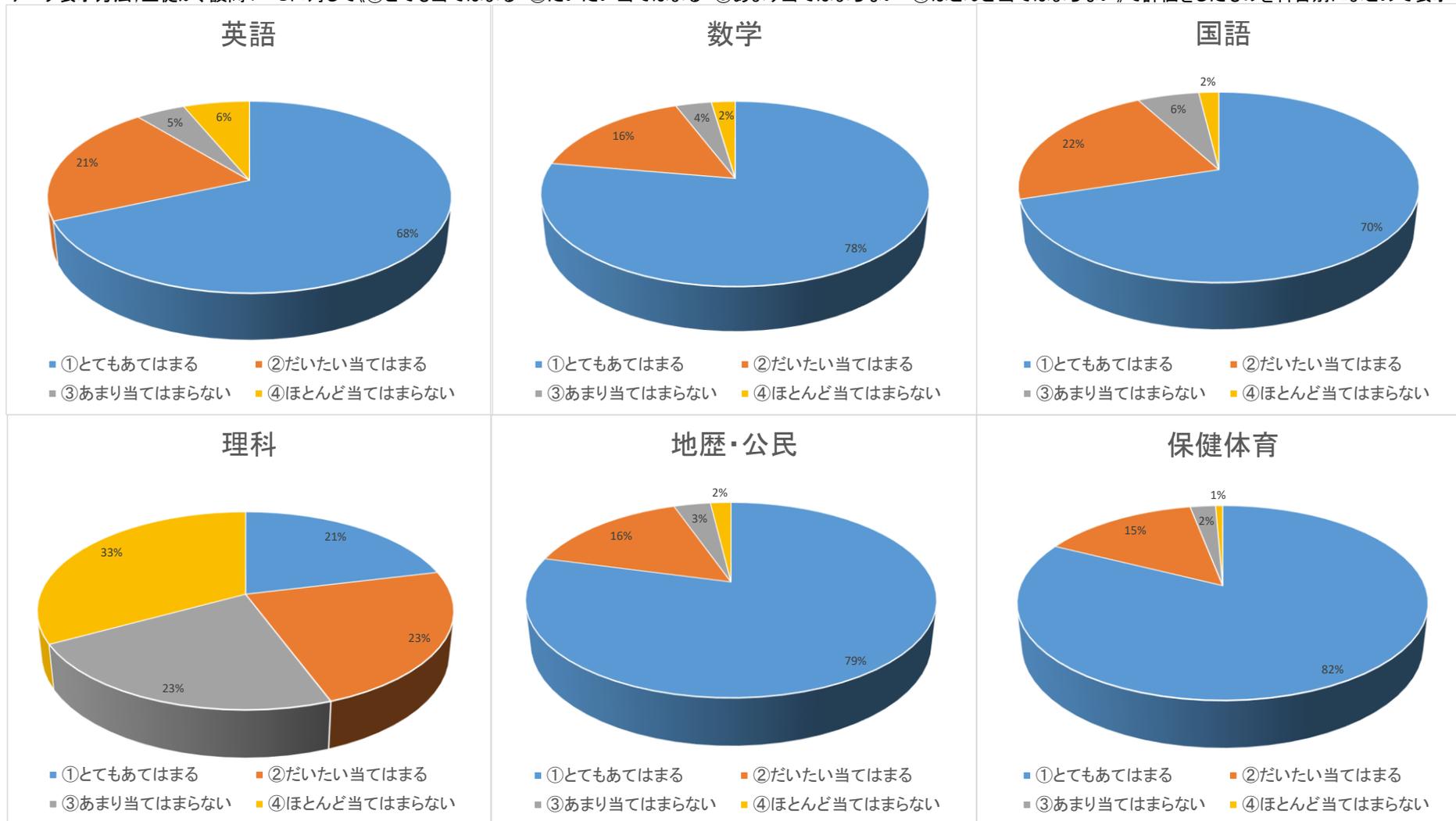
実施計画	担当部署・責任者	実施内容	評価と対応
<p>1. 就業規則が遵守される組織づくりの研修、PDCAサイクルの実施 2. 教職員指導体制確立するための研修、PDCAサイクルの実施 3. 人材育成制度の実施と見直し 4. 組織力を高めるための意識改革研修の実施、PDCAサイクルの実施</p>	<p>校長・副校長・教頭・事務長</p>	<p>夏期休暇教職員研修にて、現状における問題点やカトリック・ミッションスクールとしての取り組みなどについてグループディスカッションを行い、その後、具体的な取り組みについて学年・各部等で検討を行った。 自己研鑽を積むため、教職員は、年間2回以上の外部研修会に参加予定。</p> <p>事務室：業務打合せと法律・規程の理解に重点を置いた朝礼、京都府、中高連、私学経営研究会等の研修・懇談・懇親会への積極的参加、光ヶ丘高オープンキャンパス視察(6月1日)、聖カタ大・短、学園高校キャンパス視察(6月28、29日)等の取り組みを行い、私学人としての知識の向上、視野の拡大を図っている。</p>	<p>教員：今後の本校のあり方について多角度からの意見交換を行うことができた。また外部研修会に参加して自己研鑽を積もうとする動きが感じられた。 評価B</p> <p>事務室：年度末に個別面談を実施し、個々の職員の守備範囲拡大、俯瞰的視野を醸成すべく、ジョブローテーションの準備を行った。 評価A</p>

教科別生徒授業評価(2019年11月実施)

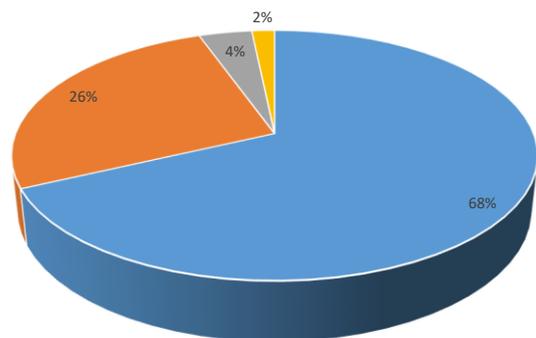
〈設問内容〉

設問1: 先生は授業の始まりと終わりの時間を守っている。 設問2: 先生の話す声は良く聞こえる。 設問3: 先生の説明はわかりやすい。
 設問4: 先生の板書はわかりやすい。 設問5: 先生は私たちの質問にきちんと答えてくれる。 設問6: 先生の授業の内容は適切である。
 設問7: 先生の宿題や課題の量は適切である。 設問8: 先生の授業から興味・関心がわき、もっと学びたくなった。

データ表示方法: 生徒が、設問1～8に対して《①とても当てはまる ②だいたい当てはまる ③あまり当てはまらない ④ほとんど当てはまらない》で評価をしたものを科目別にまとめて表示

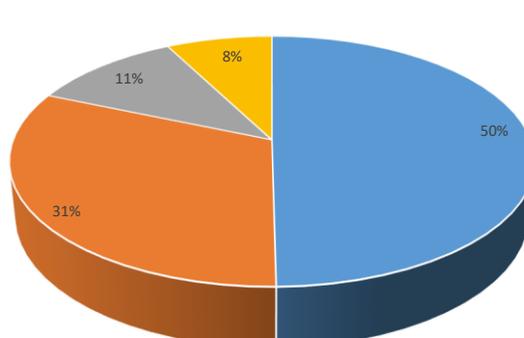


家庭



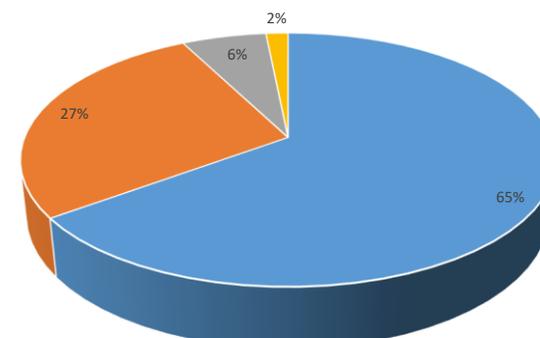
- ①とてもあてはまる ■ ②だいたい当てはまる
- ③あまり当てはまらない ■ ④ほとんど当てはまらない

宗教(学校設定科目)



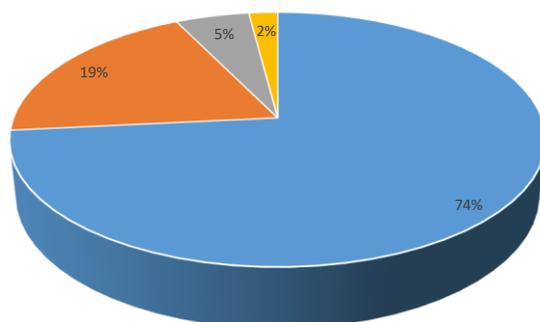
- ①とてもあてはまる ■ ②だいたい当てはまる
- ③あまり当てはまらない ■ ④ほとんど当てはまらない

看護専門科目



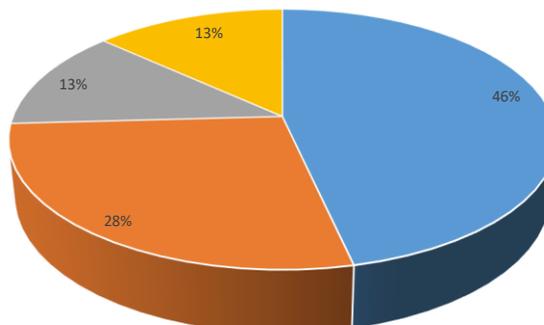
- ①とてもあてはまる ■ ②だいたい当てはまる
- ③あまり当てはまらない ■ ④ほとんど当てはまらない

普通科5系講座(学校設定科目)



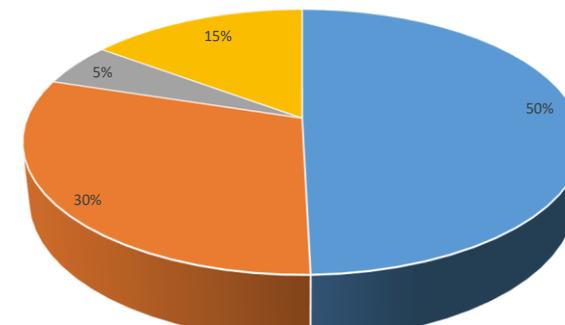
- ①とてもあてはまる ■ ②だいたい当てはまる
- ③あまり当てはまらない ■ ④ほとんど当てはまらない

カタリナ講座(学校設定科目)



- ①とてもあてはまる ■ ②だいたい当てはまる
- ③あまり当てはまらない ■ ④ほとんど当てはまらない

一般教養(学校設定科目)



- ①とてもあてはまる ■ ②だいたい当てはまる
- ③あまり当てはまらない ■ ④ほとんど当てはまらない